

第3章 成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題

1 成田空港と羽田空港の便の優位性比較 ※2023冬国際航空便ダイヤ・毎日運航便データに基づく 北中米、台湾、フィリピン、ベトナム、インドネシア、UAE、モンゴルで成田優位。

便数/週	羽田	成田	計	備考	成田市場入居者等のターゲット
米国 ※都市の優位性	242	179	421	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは グアム、デンバー、ボストン	◎
韓国	97.5	246	343.5		
中国	158	170.5	328.5	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは ハルビン、寧波、瀋陽、杭州	
台湾	70	134.5	204.5	成田-桃園、羽田-松山、現地倉庫が 桃園 充実しているため成田優位	◎
香港	48.5	98.5	147	羽田朝便で現地当日レストラン着がスタンダード、成田は朝便搬入困難	
フィリピン	28	91	119	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは クラーク、セブ	
ベトナム	28	82	110	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは ダナン	◎
タイ	42	49	91		◎
シンガポール	49	42	91		◎
オーストラリア	42	17.5	59.5	シドニー便は羽田のみ、他も羽田優位	
マレーシア	11.5	29	40.5		◎
インドネシア	15.5	24	39.5	成田優位、 テンパサール は週6便、成田発のみ	◎
ドイツ	31	7	38		
カナダ	14	21	35	成田優位 (モントリオール は週4便、成田のみ)	
フランス	22	8	30	羽田優位	
イギリス	30		30	羽田優位	
インド	14	10	24	羽田優位	
UAE	7	14	21	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは アブダビ	◎
カタール	7.5	7	14.5	成田羽田同等	
メキシコ		14	14	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは メキシコシティ	
フィンランド	9.5	4	13.5		
トルコ	7	4	11		
モンゴル		8	8	成田発のみ、かつ、毎日就航しているのは ウランバートル	
ニュージーランド		7	7		

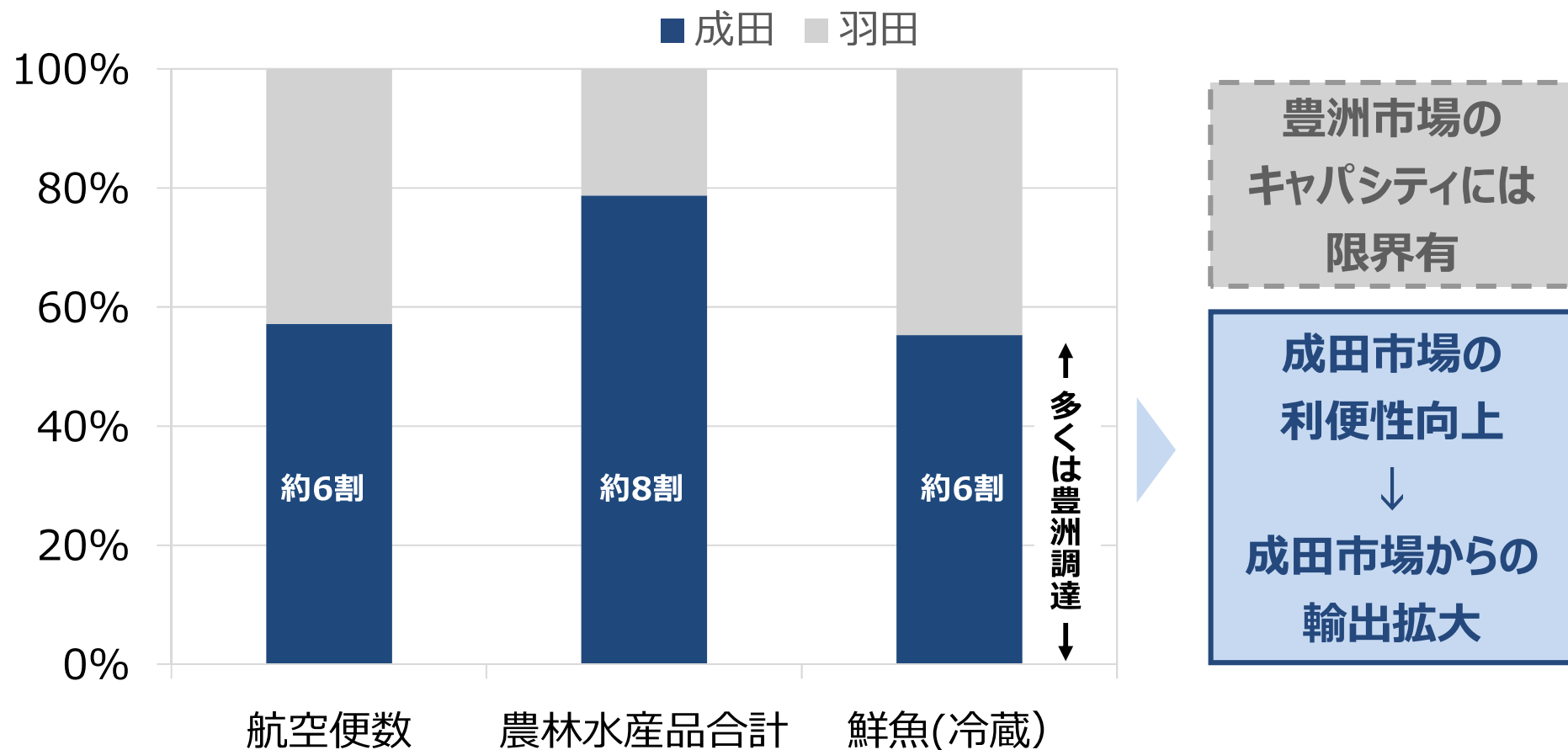
※カンボジアへの直行便はなく、タイ、ベトナム、シンガポールを経由する必要。

第3章 成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題

2 成田空港と羽田空港からの輸出実態比較

成田空港は国際航空便数が多く、農林水産物の8割は成田空港から輸出されています。鮮魚の6割は成田空港から輸出されているが、豊洲市場のキャパシティに限界があり、成田市場の利便性が向上すれば、成田市場からの輸出拡大が見込めます。

成田・羽田空港からの国際線の便数及び農林水産物・鮮魚の輸出額の比率



第3章 成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題

3 成田市場を活用した輸出の現状と課題

成田市場拠点の輸出者による輸出拡大に向けては商流構築が課題

大田・豊洲市場拠点の仲卸等の成田市場の活用を促進するためには

青果 = 成田市場の利便性向上が鍵、水産 = 輸出環境の整備が必要。

		← 成田市場での作業内容 →				輸出拡大に向けた 検討事項
		輸出商社	卸を通じた集荷 (市場便)	梱包・加工	パレタイズ 通関	
↑ 成田 拠点 ↓	青果	シティ青果成田(卸)	○	○	○	} 商流構築 物流効率化
		輸出実績のある仲卸	△	○	○	
		輸出実績のない仲卸	○	×	×	
	水産	大都魚類(卸)	○	×	×	
		輸出実績のある仲卸	△	○	○	
		輸出実績のない仲卸	○	×	×	
↑ 成田 以外 ↓	青果	輸出実績のある仲卸A	△	○	○	} シティ青果成田の 機能・サービスの利用等
		市場外の輸出事業者	×	×	○	
	水産	豊洲市場と成田市場拠点をもち、 中規模に輸出している仲卸B	今後○	今後○	今後○	} 製氷機等 EU HACCP
		豊洲市場で大規模に輸出 している仲卸C	今後△	今後○	○	